

日本小児看護学会第 28 回学術集会：テーマセッション 2(小児看護政策委員会)
「小児看護の専門性を地域の子育てで展開しよう」 参加者アンケート結果
開催日時：2018 年 7 月 21 日（土）16 時 50 分～18 時 10 分

1. アンケート回収率

参加者数：約 110 人

回収数：68 枚（61.2%）

2. アンケート回答者の属性

1) 所属

参加者の所属は教育機関（看護系大学・専門学校等）が 24 名（35.3%）と多く、次に総合病院 22 名（32.3%）、診療所・クリニック 7 名（10.3%）の順が多かった。その他の所属は、児童福祉施設、周産期・小児専門病院、離職中、大学院生、の回答があった。所属を 2 つ記載した参加者が 2 名おり、教育機関（看護系大学・専門学校等）＋大学附属病院小児科外来、診療所・クリニック＋子育て広場の運営の兼任、という回答であった。

訪問看護ステーション、学校の所属の参加者はいなかった（表 1）。

表1 参加者の所属

所属施設	人数 (%)
小児専門病院	5(7.4)
総合病院	22(32.3)
診療所・クリニック	7(10.3)
訪問看護ステーション	0(0)
保健所・保健センター	1(1.5)
保育所／幼稚園	2(2.9)
学校	0(0)
教育機関	24(35.3)
その他	5(7.4)
無回答	2(2.9)

2) 日本小児看護学会の会員の有無

日本小児看護学会の学会員は 41 名（60.3%）、非会員は 22 名（32.4%）であった（表 2）。

表2 日本小児看護学会会員の有無

会員の有無	人数 (%)
会員	41(60.3)
非会員	22(32.4)
無回答	5(7.3)

3) 会員の所属

会員 41 名の所属は、教育機関（看護系大学・専門学校等）が 19 名（46.3%）と多く、次に総合病院 12 名（25.3%）、その他（児童福祉施設、周産期・小児専門病院、離職中、大学院生）4 名（9.8%）の順が多かった（表 3）。

表3 日本小児看護学会会員の所属

所属施設	人数 (%)
小児専門病院	3(7.3)
総合病院	12(29.3)
診療所・クリニック	2(4.9)
訪問看護ステーション	0(0)
保健所・保健センター	0(0)
保育所／幼稚園	1(2.4)
学校	0(0)
教育機関	19(46.3)
その他	4(9.8)

4) 非会員の所属

非会員 22 名の所属は、総合病院が 9 名 (40.9%) 多く、次に診療所・クリニック 4 名 (18.2%)、教育機関 (看護系大学・専門学校等) 4 名 (18.2%)、が同数で多かった (表 4)。

表4 日本小児看護学会非会員の所属

所属施設	人数 (%)
小児専門病院	2(9.2)
総合病院	9(40.9)
診療所・クリニック	4(18.2)
訪問看護ステーション	0(0)
保健所・保健センター	1(4.5)
保育所／幼稚園	1(4.5)
学校	0(0)
教育機関	4(18.2)
その他	1(4.5)

3. 各質問に対する返答

1) 本テーマセッションの内容に関心があったか

本テーマセッションの内容に関心があったかの問いについて、「とてもあった」が 48 名 (70.6%)、「少しあった」が 17 名 (25.0%)、「あまりなかった」「全くなかった」の回答は 0 名であった (表 5)。

表5 本テーマセッションの内容に関心があったか

	人数 (%)
とてもあった	48(70.6)
少しあった	17(25.0)
あまりなかった	0(0)
全くなかった	0(0)
無回答	3(4.4)

2) 地域の子育て支援に関わっているか

地域に子育てに関わっている参加者は 29 名 (42.7%) で、関わっていない参加者は 37 名 (54.4%) であった (表 6)。

表6 地域の子育て支援に関わっているか

n=68	
人数 (%)	
関わっている	29(42.7)
関わっていない	37(54.4)
無回答	2(2.9)

3) 地域の子育て支援に関わっている人の所属

地域の子育て支援に関わっている 29 名の所属は、総合病院 9 名 (31.1%)、教育機関 (看護系大学・専門学校等) 9 名 (31.1%) が多く、次に診療所・クリニック 4 名 (13.8%) であった。その他は、小児・周産期専門病院、児童福祉施設、離職中であった (表 7)。

表7 地域の子育て支援に関わっている人の所属

n=29	
所属施設	人数 (%)
小児専門病院	1(3.4)
総合病院	9(31.1)
診療所・クリニック	4(13.8)
訪問看護ステーション	0(0)
保健所・保健センター	1(3.4)
保育所／幼稚園	1(3.4)
学校	0(0)
教育機関	9(31.1)
その他	3(10.4)
無回答	1(3.4)

4) 地域の子育て支援に関わっている参加者の具体的な支援

所属別でみた具体的な支援内容は以下の通りであった。

所属	具体的な支援内容
小児専門病院	・地域子育て支援所での看護相談
総合病院	・外来、乳児健診 ・CNS、CN として看護相談外来を実施 ・新生児～幼児の両親学級 ・他施設との連携 (保健所・保健センター、児童相談所、子ども家庭支援センター、訪問看護ステーション、学校) ・保育園／幼稚園、ファミリーサポートセンターで子どもを預かっている方への教育 (BLS、事故防止、応急処置) ・子育て支援センターにて乳幼児の保護者への事故防止を伝える ・子育て相談 (クリニック、健診センター) ・子育て支援の医療講演
診療所・クリニック	・乳幼児健診、予防接種、子育て全般の相談室で相談を受けている ・地域子育て支援拠点事業として子育て広場を運営 ・子どもクリニックでの子育て支援 ・放課後デイサービスの実施 ・乳児～思春期・成人まで、家族を含めた医療・看護を実施している
保健所・保健センター	・保健師として母子保健にかかわっている
保育所・幼稚園	・保育園にて地域で生活する子どもと家族への支援を行っている
教育機関	・保育園の看護師への支援、子育て支援のサポート

	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てプログラムの実施 ・子育てサークルの実施 ・Nobody's Perfect プログラム（カナダ生まれの親支援プログラム）の実施 ・包括センターでの子育て講座、ファミリーサポートの講座 ・子育て支援としてお孫さんにかかわるシニア世代にホームケアのポイント等伝える場をつくり、かかわっている ・外来の看護相談での支援 ・アレルギー、アトピーの子どもをもつ親の会の支援、相談
その他：周産期・小児専門病院	<ul style="list-style-type: none"> ・外来でのサポート ・低出生児の退院後の支援として、発達支援と子育て支援を目的とした親子の集まりを実施
その他：児童福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・施設入所支援での子どもとのかかわり ・一時保護・ショートステイの子どもとのかかわり
その他：離職中	<ul style="list-style-type: none"> ・とりあえず看護師としてベビーシッターをやってみようかと思っている
所属無回答	<ul style="list-style-type: none"> ・小児科クリニックでの支援をはじめ、こんにちは赤ちゃん訪問等、様々な形でかかわっている

5) 地域での専門性の高い小児看護の必要性

(1) 場、対象、場面について、以下の回答があった。

場	対象	場面
病院	医療的ケア児	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅移行 ・夜間救急受診時
	子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・救急外来、夜間救急受診時 ・事故時の一時救命処置の指導 ・課外授業の引率 ・退院時の地域への情報提供の必要性などのアセスメント
	特定妊婦	<ul style="list-style-type: none"> ・特定妊婦が出産して地域に戻るとき
クリニック・診療所	医療的ケア児	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケア児が定期受診できるようにしたいと考えたとき ・育児支援
	発達支援が必要な子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援が必要な子どもが定期受診できるようにしたいと考えたとき
	慢性疾患がある子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめてクリニックを受診したときに、短時間で子どもの病気や特徴をとらえて必要な医療を受けて、保護者が満足して帰っていただくという場面
	虐待	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待が疑われる場合
保育園／幼稚園	発達が気になる子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・発達が気になる子どもについて保健センターと連携をするとき
	発達障害のある子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育園にも発達障害のある子どもが増えている中で、保育園で働く看護師の専門的な知識は必要である
	保育園に通う子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園で予防接種、健診未受診の子どもへの声かけ ・様々なサポートが必要な事例 ・保育園に通う子どもすべてに対して、子どもの生活・健康を支援する ・子どもと親が健康面で相談したいことがあると感じているとき ・他職種（保育士や教員）が気にあるということを表出したとき
保健事業の場	0～18歳要保護児童	<ul style="list-style-type: none"> ・0～18歳要保護児童、地域～教育機関～医療現場といった情報のつながりが必要なとき ・包括センターで子育てに役立つホームケア等の話をした後、受診につ

		なげたほうが良いと判断する場合 ・健診、予防接種への支援
子育て広場	医療的ケア児 肢体不自由児 慢性疾患のある子ども	・脳性麻痺のお子さんや、医療的ケアが必要な子ども、病児（心疾患で在宅酸素療法を受けている）が健常のおさんと混ざって遊びに来られる
	子どもと家族	保護者が精神疾患や複雑な生育歴、家族関係を抱えている子どもへの支援

(2) 対象と場面について、以下の回答があった。

対象	場面
すべての子ども	・健康問題のある子ども、障害のある子どもだけではなく、健康な子どもに対する「育ち」をいろいろな場面で行う必要がある ・発達支援
医療的ケア児	・在宅での生活支援 ・保育園や幼稚園、学校通学への支援
親	・子育てをしている親への知識や情報提供 ・子どもへのかかわり方の支援 ・妊娠中や出産前後で学べる機会の提供 ・精神疾患をもつ親、若年出産、DV、虐待リスクのある家庭での養育者への支援

6) 本日のテーマセッションや子育て支援、小児看護政策委員会への要望等自由意見

(1) 子育て支援、小児看護政策委員会への要望等の自由意見として、以下のような回答があった。

【CNS の参加】

・地域の子育て支援に CNS なども積極的に参加していけるとよい。

【看護師の配置】

・子どもの発達に合わせて選択できるように、小学校・幼稚園に看護師を 1 人配置してほしい。医療的ケア児や発達支援時が入園入学できるようにしたい。

【施設間での看護師の連携】

・子育て支援包括支援センターを中心に地域のクリニックの看護師や中核病院の看護師などが顔を合わせる場が 1 年に 1 回あればよいと思う。

・文書として診療加算がとれるなど、病院と地域との連携、例えば診療所での看護－病院の看護連携ができるとうよい。

【国、厚生労働省の施策について】

・厚生労働省の施策は素晴らしいが、行政の現場は本当に横の連携（母子保健と福祉課の連携など）がととてもとても難しく、本当に必要な支援を実現していけるビジョンが見えない。

・クリニックでの活動、地域での活動を増やすことで、子どもや家族が安心して在宅で生活できると思う。それには行政の力が必要であると思う。

・必要なケアが十分にできるように、診療報酬など変えられるとうよいと思う。

【子育て支援の啓発】

・子育て支援の啓発に関する情報を、TV のコマーシャルなど活用できないか。

【医療者と保護者が引き合わせる場について】

・子育て支援をしたいと思っている医療者と、いろいろ知りたいと思っている保護者が、それぞれが思っても引き合わせられる場所がないと難しいと思った。

(2) テーマセッションの感想として、「興味深かった」という回答が多かった。それ以外として、以下の回答があった。

【話題提供について】

- ・クリニックでの子育て支援の「技」の実践報告が増えると地域での支援が広まっていくと思う。
- ・KIDS ゆらりんに関して興味をもった。これからの日本にとって必要だが、赤字ということでどうしたら増やしていけるのかと思った。

【情報提供】

- ・子育て支援の多職種連携やネットワークの具体的な方法についてもっと知りたかった。

【テーマセッションへの要望】

- ・もっと時間を割いてもいいと思う。
- ・今後も続けてほしい。
- ・ワークショップを入れてほしい。
- ・クリニックでの看護の技をどのように伝えていくのか、病院とクリニックの連携など具体的なことを考える機会をもっと作ってほしい。
- ・差し支えない程度でよいので資料があると有難い。
- ・厚生労働省のスライドが小さく見えにくかった。